

新聞を身近なものとしてとらえよう

～表現力を高める子どもをめざして～

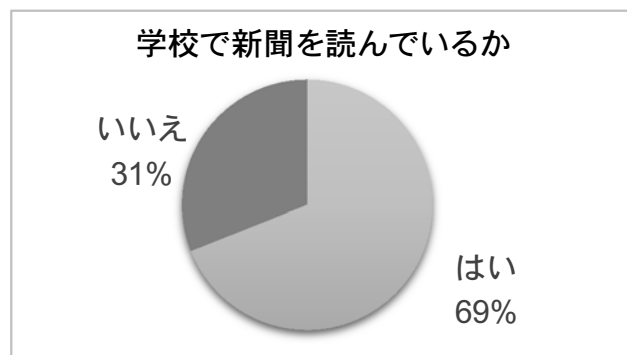
指定校 2 年次 下條村立下條小学校

藤巻伸行・小林眞由美・川村亜矢佳・鈴木浩子・伊東陽子

I 研究テーマ設定の理由

N I E 指定校として 2016 年度は 2 年目になる。2016 年度の学校教育目標、「自ら学ぶ子、心豊かな子、健やかな子」のもと、「友と学びあい、表現力を高める子どもを育てる授業をめざして」を全校研究テーマとして掲げ、社会科、N I E、図書館教育の 3 グループで研究を進めた。昨年度、研究テーマ「新聞を身近なものとしてとらえよう」サブテーマ、「表現力を高める子どもをめざして」を掲げ、全校で取り組んできた。

新聞に興味を持たせることに関しては、昨年度の 9 月より、児童昇降口に新聞コーナーを設置し、常に閲覧できるようにしたことから、登校してすぐ、新聞を読んだり、休み時間にじっくり読んでいたりするなど、学年にとらわれず、新聞に興味関心を持つ児童が多い。5 月、全校児童に「学校で新聞を読んでいるか」というアンケートをとってみた結果、7 割近い児童が新聞を読んでいた。一層、新聞を読む児童が増えるようテーマ別のスクラップ記事を掲示する（図書館教育と共同）など工夫している。



新聞づくりに関しては、子ども新聞コンクールの入選作品や昨年度の公開授業で作られた「下條村じまん新聞」を展示した。すぐれた新聞を見たり、新聞づくりの出前授業を受けたりして、社会見学のもとめ新聞など、見出しの表現やレイアウトが上手になってきている。その成果として、2016 年度の子ども新聞コンクールの入選は 20 作品（入賞 2）とすばらしい結果になった。

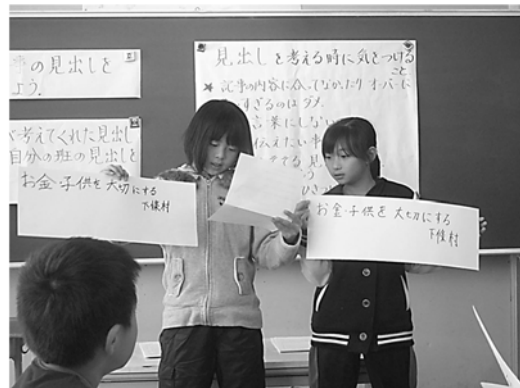
2016 年度は、「新聞を身近なものとしてとらえよう」「表現力を高める子どもをめざして」の研究テーマを継続して、より表現力を高める子どもたちの育成をめざそうと考えた。

中心的な新聞活動は昨年に引き続き、新聞製作であり、昨年よりもレベルアップした新聞づくりをめざしたいと考えた。レベルアップ内容は、『子どもたちが課題を持った新聞づくり』である。今までは、新聞を通して何かを発信しようとした時、社会見学新聞がそうであったように、見たこと聞いたことの羅列であった。そこからもう一歩踏み込んで、「なぜだろう。」「どうしてだろう。」「だから、私はこう思う。」など子どもたちが課題をもち、それについて取材したり調べたりすることで、昨年よりもレベルアップした新聞づくりができると考えた。『子どもたちが課題を持った新聞づくり』をすることで、今まで目に見えなかったものが記事になることこそ、より表現力を高める子どもたちの育成になると考え本テーマを継続した。

II 昨年度の公開授業から

昨年度公開した授業は、「下條村じまん新聞を作ろう」という単元で、下條村じまん新聞をテーマ別に班で作っている子どもたちが見出しを考える場面で、兄弟班の意見を参考にして伝えたいことが分かる見出しを考えるものであった。

読者のことを考え、より興味をもって読んでもらえる記事の見出しを考えることについては大変有効であった。



完成した「下條村じまん新聞」を道の駅で観光客に配ったことで、自分たちの考えた下條村のよい所を発信できたと言うことで満足感も得ることができた。

記事の内容に関して考えてみると、下條村民ならば知っていることの記事ばかりであった。読者が観光客であったのでそれでもよかったが、子どもたちが下條村を振り返った時に目に見えない良さもあるのではないかと考えた。昨年度製作した「下條村じまん新聞」を例に挙げると、道の駅の紹介、下條村出身の峰竜太さん、下條歌舞伎、下條村が奇跡の村とよばれる理由などの記事がある。知っていることはもちろん、調べたこと、取材したことを記事にした。この新聞から、子どもたちが課題を持った新聞づくりとは、どういうものが考えてみる。「下條村が奇跡の村とよばれる」記事があり、日本の地方自治体が抱える「少子化、財政難」を見事にクリアしたという記事である。しかしながら、記事を書いた子どもたちと奇跡の村のつながりが見えてこない。「少子化対策により、ぼくたちはどのような恩恵を受けているか」、そこに目を向け記事にすることで『子どもたちが課題を持った新聞づくり』を実現できると考える。子どもたちは、医療費無料、給食費補助7割、小中学校入学祝い金、学用品補助など村から様々な恩恵を受けている。それを調べ、記事にすることで、子どもたちが課題を持った新聞づくりになると考えられる。

III 本年度の実践（継続）

1 新聞に興味関心を持たせる

本校児童の状況をふまえ、まず新聞に興味関心を持たせることが大切だと考えた。新聞に触れる機会を増やし、各学年の発達段階に応じた活用を模索する。

2 新聞づくりのコツを学ぶ

信濃毎日新聞社の「出前授業：新聞づくり」を活用し、新聞づくりのコツを教えて頂くことにより新聞づくりに意欲的になると期待できる。

3 新聞づくりを通して、まとめる力をつける

社会見学や遠足などのまとめを新聞づくりにすることで、調べる力、まとめる力、伝えるための文章力を伸ばすことが期待できる。

IV 研究の内容

1 児童が新聞に触れる機会をつくり興味関心を持たせる



「朝日小学生新聞」「毎日小学生新聞」「讀賣新聞」「日経新聞」「産経新聞」「信濃毎日新聞」「中日新聞」の7紙を昨年度の9月から月に2～3紙ずつ提供していただき、常に新聞がある状況をつくった。閲覧場所は児童昇降口に長机を4台置き、紙面を広げてもゆっくり見られるように工夫した。登校してきた児童がカバンを背負ったまま新聞を読んだり、休み時間に読んだりする姿が多く見られた。

本年度は、新聞を読む児童が増えるようテーマ別のスクラップ記事を掲示する（図書館教育と共同）など工夫している。

2 各学級の新聞活用の実態

- 1年生・・・新聞コーナーで4コマ漫画・写真さがし
- 2年生・・・新聞コーナーで見た記事・4コマ漫画の紹介・新聞づくり
- 3年生・・・新聞コーナーで見た記事の紹介、新聞づくり、子ども新聞コンクールへの参加
- 4年生・・・新聞記事の紹介、新聞づくり、子ども新聞コンクールへの参加
- 5年生・・・新聞記事の紹介、記事の要約、新聞づくり、子ども新聞コンクールへの参加
- 6年生・・・新聞記事の紹介、記事の要約、新聞づくり、子ども新聞コンクールへの参加

3 新聞づくりを学ぶ

4学年が、信濃毎日新聞社本社を見学し、「信濃毎日新聞が届くまで」のDVDを観たり、編集局、資料展示コーナーなどの社内見学をしたりして、新聞についての興味関心を今まで以上に持てた。また、出前授業「新聞づくり」を活用し、新聞づくりのコツを教えていただいた。遠足や社会見学のまとめがすらすらできるようになってきた。

4 新聞づくりを通して、まとめる力（表現力）をつける。

- ・新聞づくりを多く経験することで、読者側の気持ちにも立ったり、記事から見出しを考えたりすることで、まとめる力がついてきたように感じる。
- ・取材をたくさんして記事を集め、精選することでより表現力の高い記事になることが期待できる。

V 学習指導案

1 単元名 「下條村のいいところ探し～目には見えないいいところ～」

2 単元設定の理由

3年生では2クラスであったが、児童数減少により4年生時にクラスが1つになった。2クラスが一緒になったことで、3年生までの各クラスのルールなどを破棄して、新しいルールなどを自分たちで決めようとする姿がある。反面、わかってもらえないと言いつばなしになる場面や、その他大勢として「何て言えばいいかわからないから」と話し合いに参加できない児童もいる。お互いの性格を知っているということもあるが、言いたいことがあるのに言わなくてもなんとなく伝わって、そのままにしてしまうことがある。



本校は、昨年度より長野県N I E研究指定校を受け、2016 年度が 2 年目である。N I E活動の一環として新聞づくりの出前授業を受け、社会見学や遠足のまとめなどを新聞形式でまとめることで、事実を伝える経験をしている。また、本年度、長野社会見学で信濃毎日新聞本社見学をした折には、「なぜ事件を新聞で伝えるのか」というと、読んでいる人に同じ事を繰り返してほしくないから」という話を聞いた。新聞記者が思いや願いをもって記事を書いていることを知った。

本校には「そばランチ」という、道の駅へ行ってそば定食を食べる行事が年に 3 回あり、児童は皆楽しみにしている。また、家族みんなで近所のそば畑の花を見に行く児童、北又の森で待ち合わせて遊ぶ児童や、花の名前を知るために放課後に村の図書館へ行って調べる児童、ほとんどの児童が村の夏祭りに出かけたり村民運動会に参加したりするなど、村ならではのものに密着した生活を送っている。

遠足では戦時中に村人が作ったおおぐて湖へ行って遊ぶことで、「こんな場所があるんだ」「おおぐて湖が好きになった」「また遊びに来てもいいかな」という子どもたちの言葉が聞かれた。また、全員で読んだ立て看板に、食糧難に対応するために作ったこと、当時は機械がなかったため手で掘ったこと、出征していた男の人達以外の老人や女の人、子どもだけで何ヶ月もかけて掘ったことが書かれていることを知り「そうなんだ」「知らなかった」という声も多く聞かれた。下條村の人々が時間をかけて、手間をかけて、知恵をつかって村をつくりあげてきたことにふれた。

近年、テレビの取材などで「奇跡の村」と全国的に注目され取り上げられている自分たちの村が、「すごいんだ」という思いをもっている。しかし、それが形のない「村人の努力」や「村の人たちが村人・子どもにける思い」にもあることを実感してはいない。

自分たちの住んでいる村を見つめ直し、こんなにいいところがあるんだと実感し自分たちのふるさとを愛してほしいと考え、本単元を設定した。

3 単元の目標

家族や地域で暮らす人たちから取材をし下條村のいいところ探しをすることを通して、自分たちの住む村に対する愛着をもち、その思いを新聞記事に書いて伝えることができる。

4 具体目標（評価基準）①取材を通して付けたい力 ②新聞作りを通して付けたい力

	A 学習方法		B 自分自身	C 他者や社会
観点	課題の設定	課題の解決	自らの意思決定	他者との共同
	①自ら課題を設定している。 ②下條村のよさをもっとたくさんの人に知ってもらうためには、下條村をもっとよくするためにはどうしたらよいか、新たな課題を設定している。	①取材したい人を見つけ、自分から話しかけたりお願いに出向いたりして、情報を収集している。	①村に住んでいたたり村で働いていたりする人々の、下條村に対する思いを知り、自分たちの下條村を大切にしている。	②友だちと協力して、伝えたい事柄を選び、新聞記事を書いている。

5 単元展開の概要

学習活動（時数）	子どもの反応	支援・評価	時
1 下條村はどんな村なのか、どんないいところがあるのか知っていることを話し合おう。	○下條村はどうして奇跡の村と呼ばれているんだろう、という疑問をきっかけに、下條村はどんな村なのか、どんないいところがあるのか話し合う。 ・テレビの取材があったし、有名なんだ。 ・お金の使い方が上手だって聞いたことがあるよ。おじいちゃんが言ってた。 ・そばランチって他の学校にないの。 ・他のところと違うんだね。	・子どもたちが知っていることを挙げさせるとともに、他の市町村は違う点については担任から知らせた。 ◇給食費やバス代の補助 ◇給食の内容 地元野菜の提供、応援隊 ◇そばランチ	2
2 下條村に住んでいる人や、下條村で働いている人に取材をして、下條村のいいところを探そう。	○下條村に住んでいる人、下條村で働いている人に取材をする。 ・お家の人に聞こう。 ・昔から下條村に住んでいる人に聞こう。 ・下條村で働いている人たちにも聞きたい。 ・下條村にある会社やお店で働く人たちに聞きたい。 取材をした人 ◎父母（祖父母） ◎地域の会社や店で働く人 （主に子どもの家の近所の方） 小売店、図書館、役場、 保育園、会社、病院施設、 理美容室、飲食店 など ○父母へのインタビューから ・お金のことが多いね。 ・人柄のよさもあるよ。 ・自然がたくさんあるっていうよさもあるね。 ○地域の方へのインタビューから ・下條村に住んでいない人や、他の場所から引っ越してきた人も答えてくれたよ。人柄がたくさんあるなあ。 ・村の人たちが協力してるっていうことも多いね。	・校内の先生へインタビューをする際は、先生方に前任校と下條小学校との違いを話してもらえよう依頼しておいた。 ・家の人については、インタビューに答えてもらえるようあらかじめ学級便りで依頼をした。 ・働いている人に取材するときには、直接インタビューしたり、仕事中でできない場合はアンケート用紙に答えてもらったりした。 ・取材をしたらその都度整理し、どんな人たちが下條村のどんなことをいいと感じているか全体で共有し確認していった。 ↓ 取材した内容を整理する場面 	3

3 インタビューをまとめ、事実を確かめよう。	○インタビューやアンケートなど取材をして出てきた事柄が本当なのか確かめる。 ・いろいろな補助があるって言うけど、本当だね。 ・うちは入学祝い金でランドセルを買ったんだって。 ・引っ越してきたばかりのとき、近所の人に親切にもらったよ。 ・人柄がいいって意見があったけど、確かに近所の人から野菜をもらうな。	・下條村にまつわる資料や役場にあるリーフレットなどを参考にした。 ・自分たち自身が感じている下條村のよさと比較し確認した。	5
4 下條村のいいところを伝えていこう。	○下條村のよさをもっと知ってもらおう。 ・全校に知ってもらいたい。 ・ぼくのうちの隣の部屋に最近引っ越してきた人がいるから、その人に知らせたい。 ・お母さんは下條の人じゃないから、こういうこと知らないかもしれない。 ・これまでも書いてきたから、新聞で伝えよう。	・いいところ探しをして自分たちが感じた下條村に対する思いが新聞になるように、『メッセージ』の入った新聞づくりになるようにする。	6 本時

6 本時案

(1) 本時の主眼

自分の書きたい記事の候補を決めた子どもたちが、全校のみんなに伝えたい根拠や話題にあったエピソードを話し合い、具体的なエピソードやメッセージを入れて記事を書くことを通して、具体的なエピソードや伝えたいメッセージを入れると相手に伝わりやすいということに気付くことができる。

(2) 本時の位置 (全 16 時間扱い中の第 11 時)

- ・前時…取材した内容、自分やクラスの友だちが下條村の良さを感じたエピソードをもとに、自分が新聞に書きたい記事の候補を決めた。
- ・次時…メッセージを見直し、記事を書き進める。

(3) 本時の展開

段階	学習活動	予想される子どもの反応	教師の支援・評価	時間
導入	1 学習問題を確認する。	・いよいよ新聞記事を書き始めるんだろうな。 ・書きたい記事がいくつかあるけど、どの話題の記事にしようかな。 ・迷っちゃうな。		18

学習問題

全校のみんなに、下條村のいいところが伝わる記事を書こう。

2 なぜ伝えたいのか明らかにする。

- ・『人柄の良さ』がベスト1じゃないかな。だって、取材したら「下條の人は優しい」という意見が一番多かったもん。
- ・『お金』のこともきっとベスト3に入っているんじゃないかな。知らない人が多いだろうから、全校に知らせた方がいいよね。
- ・『あいさつ』は全校に伝えた方がいいと思っている人がたくさんいるだろう。
- ・『村の人が協力している』っていう意見が心に残っているよ。その意見を全校にも知ってほしいな。
- ・地域の〇〇さんが書いてくれたことを伝えたい。

- 前時子どもたちが候補にあげた「全校に伝えたいこと」を集約しておき、『4年生が全校に伝えたい話題ベスト5』を提示する。ベスト3に入る話題を予想させ、その理由を問う。
- 理由が言えないでいる、または出てこない場合は「どうしてこれがベスト2だったんだろう」「◇◇さんは、どうしてその話題を記事にしたいと思ったの。」と問うことで、子どもたちが記事にしたい思いを共有する。

3 理由や具体的なエピソードを整理し、メッセージについて確認する。

理由 話題	取材の中で 出てきたこと	エピソード	伝えたいこと 《メッセージ》
人柄	〇〇さんの意見を知らせたい	自分もあいさつをしてもらっている	全校のみんなにもあいさつをしてほしい
お金	〇〇さんの意見を知らせたい	兄弟がお祝い金をもらった	住民にやさしい下條村を大切にしたい
自然	〇〇さんの意見を知らせたい	景色のきれいな場所がある	ごみを捨てたりしないで自然を守ってほしい

- 学習活動2の話し合いに出てきた『伝えたい理由』を、左のような表にして板書しておく。
- これまでに子どもたちが書いた新聞の中で、読み手に伝えたい文章が書かれているものを取りあげ、『メッセージ』として位置づける。

学習課題

伝えたいことに合う具体的なエピソードやメッセージを入れて書こう。

展開

4 学習カードに記事を書く。

- 予想される話題
- ◎人柄
→近所づきあい、あいさつ、優しさ、地域の助け合いなど
 - ◎お金
→お祝い金、給食費、医療費、子育て支援など
 - ◎自然
→そば、野菜、景色、気候など

- これまでにためておいた取材メモや板書をもとに書くよう伝える。

一つ目は、児童が地域に深く関わることで本当に伝えたいことが見えてくると考え、取材活動をさせたことです。児童は、下條村に住む人や地域の会社や店で働く人、元村長や家の人などにインタビューしました。資料やホームページなども活用し、下條村の良いところを伝えたいという気持ちが高まりました。

二つ目は、学習カードを工夫したことです。児童は見たたり聞いたりしたことを羅列して書く傾向があります。そこで川村教諭は、伝えたいことを①話題②エピソード③読む人へのメッセージの順に整理し、それを基に下書きができるようにしました。伝えたいことを明確にしてから書くことで、表現力が高められると考えました。

三つ目は、グループ内での発表などを通して、具体的なエピソードやメッセージを入れると読む人に伝わりやすい記事になることを、児童に気付かせようとしたことです。ある児童は、地域の人たちの優しい人柄について、「近所から野菜をもらった。」というエピソードを紹介。協力し合う地域柄について「下條村で暮らしていることをほこりに思っている。」というメッセージを考えました。